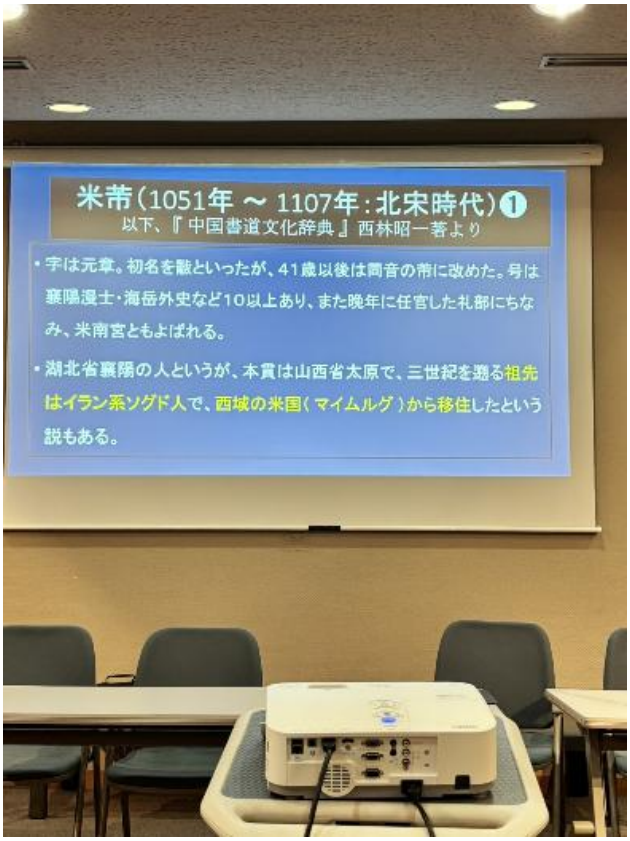
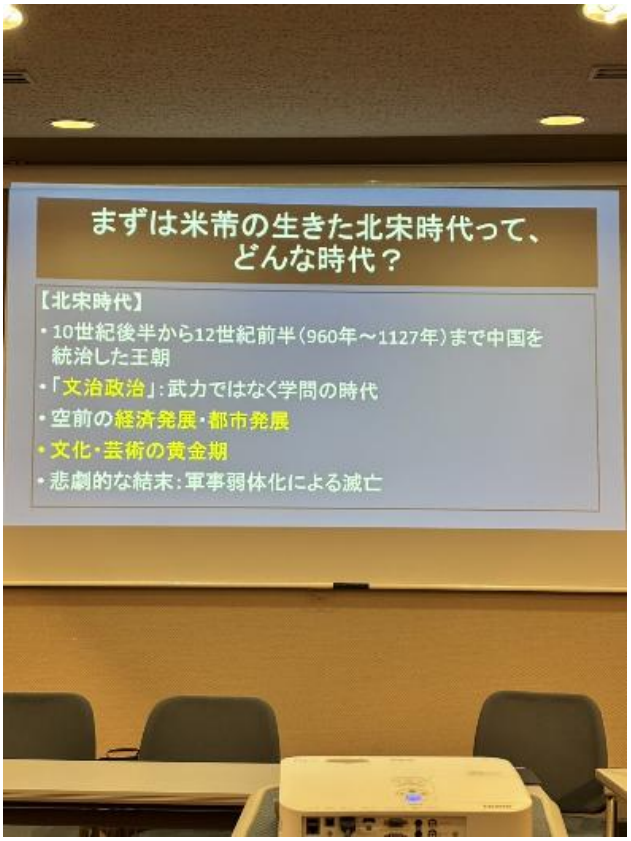
７月２５日（土)、北九州市小倉北区の松本清張記念館において「第３６回 朗読・ミュージック・おしゃべりサロン」が開催され、そのプログラムで、本学心理・文化学科の古木　誠彦 先生（学科長・教授・書家）が講師を務め、作品の解説およびワークショップを行いました。

プログラム第１部では、清張作品『球形の荒野』に登場する書家「米芾」をキーワードに、表面的には見えないこの小説の面白さを、斬新な切口で解説しました。





また、第２部では、『球形の荒野』に登場する「野上顕一郎」（別名：田中孝一）の筆跡を参加者全員で真似（筆ペン使用）し、全員が野上顕一郎になりきるというユニークなワークショップを行いました。

さらに「第２部のおまけ」では、筆文字アートと題し、「私」という漢字一字を自由な発想で、現在の自分をPRすることを目標にデザインしました。参加者全員の笑顔が絶えない楽しいひと時を過ごしました。

「参加のみなさんは、書家の僕が、あの清張作品をどのように解説するか、非常に興味津々の様子でした。思ってもいない切口だったようで、参加者からは＜目から鱗＞とも言われました。私自身もほんとうに楽しい１日でした。」（古木談）